

## 小学校国語科における模擬授業指導に関する一考察 — 教員採用選考試験における指導を通して —

有嶋 誠

### 1. はじめに

小学校の教員を目指すものにとって、大学等で学ぶ知識としての教職教養や専門教養等に加え、小学校現場での教育実習を通して児童に直接指導することや教材を分析して授業を構成する能力等は教員として大切な専門性である。教員養成校における教育指導法に関する知識や技術面の学びと教育実習校における授業実践や養成校における模擬授業等の実践が将来のM県の教員としての資質をさらに高め、一時間一時間を大切に「分かる授業」「できる授業」「楽しい授業」を実践することが児童の教育を担うことにつながる。

ところで、教員採用選考試験は「教員としての知識の量」と「教員としての資質の量」を問う採用試験が多くみられる。M県の第一次選考試験では「教員としての知識の量」を選考し、第二次選考試験で「教員としての資質の量」を選考している。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、M県の小学校教員採用選考第二次試験は、例年とは異なり「体育実技」「音楽実技」「集団討論」を中止し、「個人面接」「模擬授業」「英会話」のみの試験であった。「個人面接」と「模擬授業」の配点は総得点の約85%を占めている<sup>(1)</sup>。

筆者は、大学における二次試験対策指導5年目を迎え、これまで4年間の模擬授業指導の経験を活かして、教員採用選考試験における国語科模擬授業指導の在り方を考察したい。

### 2. 研究の目的及び方向性等

#### (1) 研究の目的

本稿では、教員採用選考試験の小学校国語科の模擬授業指導の在り方を提議するとともに、今後の教員養成校における国語科教材の模擬授業指導の在り方について以下の点から提議することを目的とする。

ア 小学校国語科における文学的文章教材及び説明的文章教材の指導のポイント

イ 教員採用選考試験における模擬授業指導の在り方

ウ 模擬授業の構成及び模擬授業に望む心構え

#### (2) 研究の方向性

教員採用選考試験の第二次試験において、小学校国語科教材の模擬授業を行なう場合は文学的文章教材と説明的文章教材の指導のポイントを的確に意識するとともに模擬授業に臨むポイントとして「課題の解釈」「発問と質問の構成」「板書」「机間指導」「態度や心構え」「声量」などに留意させることが重要である。

#### (3) 研究の方法

令和3年度(令和2年度実施)M県教員採用選考試験第一次合格者に対する模擬授業指導において、文学的文章教材及び説明的文章教材に関する模擬授業指導の事例をもとに、今後の模擬授業指導の在り方を考察する。

ア 小学校国語科の指導の在り方

文学的文章教材の指導のポイント      説明的文章教材の指導のポイント

イ 模擬授業指導の在り方

「課題の解釈」「発問と質問の構成」「板書」「机間指導」「態度や心構え」「声量」等

### 3. M県における教員採用選考試験の概要と模擬授業<sup>(1)</sup>

令和3年度（令和2年度実施）M県公立学校教員採用試験の概要は以下の通りである。

#### (1) M県が求める教師像

- ア 児童に対する愛情と教育に対する情熱・使命感をもち、児童との信頼関係を築くことができる。【愛情と情熱・使命感】
- イ 分かりやすい授業を行ない、児童に確かな学力を育成するなど高い専門性を身に付けている。【高い専門性】
- ウ 社会人として幅広い教養と良識や倫理観、心の豊かさを身に付けている。【幅広い社会性、倫理観、人間性】
- エ 絶えず学び続け、自らの資質・能力を高める。【学び続ける姿勢】

#### (2) 教員採用選考試験の概要

- ア 受験区分 「小学校教諭等」
- イ 採用予定者数 「205名程度」
- ウ 第一次選考試験
  - ・期日 : 令和2年7月11日（土） 7月12日（日）
  - ・試験内容等：「教職教養」の試験及び「専門（小学校）」の試験
  - ・試験時間 : 教職教養（50分） 専門（小）90分
- エ 第二次選考試験
  - ・期日 : 8月21日（金）から8月30日（日）までのうち指定された2日間
  - ・試験内容等：模擬授業 個人面接 英会話 適性検査
  - ・配点 : 模擬授業30点 個人面接30点 英会話10点

#### (3) 第二次選考試験における模擬授業

- ア 試験内容  
模擬授業の教材等については当日知らせる。小学校教諭の模擬授業は、国語科、社会科、算数科、理科のいずれか1つを実施する。
- イ 模擬授業の評価の観点  
教員としての適正、専門的知識・技能、授業構成力、指導方法・手立ての工夫等の実践的指導力を評価する。
- ウ 模擬授業の教材  
第一次選考試験を合格した学生には、模擬授業は小学校第6学年の教材から出題するという通知が郵送でなされた。
- エ 模擬授業の評価の観点<sup>(2)</sup>  
M県の教員採用選考試験における模擬授業の評価の観点については、「イ」で述べたとおりであるが、宮城県教育委員会が評価の観点をより具体的に記述しているので指導上の参考とする。
  - ・ 模擬授業の評価区分  
模擬授業を総合的に評価し、AからDまでの4段階評定を行なう。

小学校国語科における模擬授業指導に関する一考察  
— 教員採用選考試験における指導を通して —

・ 模擬授業の主な評価の観点

児童生徒を引きつける魅力や、児童生徒を導く資質と能力、コミュニケーション能力等を備えているか。児童生徒の主体的な学びを支える授業づくりをしているか。教科科目の専門性を備えているか。

(4) M県における模擬授業試験の概要 (大学の過年度受験生の情報)

平成30年度の第二次選考試験の模擬授業は、受験生8名に一齐に問題用紙が配布され、個人思考の時間が15分程度与えられた後に、8名それぞれが別室に向かい同じタイミングで入室して模擬授業を行なっている。模擬授業試験会場に入室して受験番号を試験官に告げた後に約10分間の模擬授業を行ない終了後に試験官から数問の質問があった。

<平成30年度の試験問題(概略)> 「国語科 話すこと・聞くこと」

卒業を前にして、「スピーチを書こう」を設定した。小学校6年間を振り返ったり将来に向けて考えたりしたことをもとに、本時では話題を決め、伝えたい想いを明確にする授業をする。ここの導入の段階の模擬授業をしてください。

<模擬授業終了後の試験官からの質問>

- ・ 今回の模擬授業で1番気をつけたところはどこですか。
- ・ 言語活動は何が大切だと思いますか。
- ・ この授業のこれからの展開と次時はどのように行ないますか。

#### 4. 小学校国語科授業における指導のポイント

##### (1) 小学校国語科で育成する資質・能力

小学校学習指導要領(平成29年告示、以下学習指導要領と記す)では、小学校国語科で育成する資質・能力を「国語で正確に理解し、適切に表現する資質・能力」と規定している。そして、育成を目指す資質・能力の明確化を測るために、これまでの3領域である「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の二つに分けられ、その中の「思考力、判断力、表現力等」の内容として、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が示されている(文部科学省、2018)。

国語科は言語で考え表現する力を育成する教科であり、教材を詳細に教えることではなく、適切な言語活動を通して、言葉で正確に理解し適切に表現する資質や能力の育成を目指している教科である。

##### (2) 小学校国語科授業に求められる「考えの形成」

学習指導要領解説国語編の「指導要領国語科の改定の趣旨及び要点」では次のように示している。

「学習過程の明確化「考えの形成」の重視

ただ活動するだけの学習にならないよう、活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すため、平成20年告示の学習指導要領に示されている学習過程を改めて整理している。この整理を踏まえ、「思考力、判断力、表現力等」の各領域において、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けた。また、全ての領域において、自分の考えを形成する学習指導過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けた(文部科学省2018 p9)。

このことは、国語科の授業で活動だけの学習に終わらずに「児童が自ら考える場面」「友達と一緒に考える場面」「自分の考えをまとめて発表する場面」など児童一人一人にとって「考えの形成」ができる学習過

程の必要性を述べている。

### (3) 文学的文章教材の指導のポイント

文学的文章（物語や誌等）は、作者が様々な言語を使い、登場人物の様子や心情、場面の情景を読み手に豊かに伝える文章である。小学校教材で代表的な文学的文章教材としては、1年生「おおきなかぶ」2年生「かさこじぞう」3年生「サーカスのライオン」4年生「ごんぎつね」5年生「大造じいさんとガン」6年生「海の命」が挙げられる<sup>(3)</sup>。

文学的文章教材の指導のポイントとしては、作者が言語で用意している様々な表現をもとに、登場人物の気持ちや作品の情景をより深くイメージさせることが重要である。特に、「登場人物の行動や心情の変化」「場面の様子」「情景のイメージ」「言語による表現方法の良さ」などを指導のポイントとして豊かに読み取らせ、文学的文章教材で読み取ったことや感じたことを自分なりの表現方法で紹介するなどの言語活動を設定することも重要である。なお、登場人物の行動や心情の変化や場面の様子などを読み取らせるためには、教科書の行間に書かせたりワークシートに書き写させたりすることが多い。なお、受験生には表2にある「文学的文章のキーワード」を指導教室の黒板に書いて説明した。なお、代表的な6作品は「東京書籍」の教科書から筆者が独自に選定した。

表1 文学的文章教材指導のキーワード

|                   |  |
|-------------------|--|
| 豊かな読み             | 登場人物や心情や場面の情景等を豊かに読み取らせる。  |
| 登場人物の言動           | 会話文などから登場人物の心情や行動を豊かに想像させる。  |
| 五感を表す言葉           | 視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚の言葉に着目させる。<br>見えるもの、聞こえるもの、触った感触、味、匂いを表す言葉など                           |
| 五感を表す言葉から第六感を読み取る | 基本的に五感以外のもので五感を超えるものを指し、理屈では説明しがたい鋭くものごとの本質をつかむ心の働きのこと。五感の言葉で読み取ったことを総合的に表した登場人物の心情。 |
| 場面分け              | 場面の移り変わりを捕らえさせる。   |
| 情景を表す言葉           | 情景の様子、色、景色、風景等   |
| 言語活動の設定           | 紹介文を書いたり音読劇をしたりする言語活動を設定する   |
| 読書への誘い            | 作者に関係する図書等を紹介して読書意欲を高める。   |

### (4) 説明的文章教材の指導のポイント

説明的文章（説明文）は、筆者が読み手に様々な知識や情報を与えるための文章である。小学校教材で代表的な説明的文章教材のとしては、1年生「さとうとしお」2年生「ビーバーの大工事」3年生「自然のかくし絵」4年生「ヤドカリとイソギンチャク」5年生「和菓子をさぐる」6年生「イースター島にはなぜ森林がないのか」が挙げられる<sup>(4)</sup>。

説明的文章教材の指導のポイントとしては、筆者が読み手にどのような情報を伝えているのかについて、段落及び段落相互の関係を考えながら読み進める。その際に、説明的文章教材の「はじめ・なか・おわり（序論・本論・結論）」をもとにして筆者の論の進め方に着目させることが大切である。なお、段落相互の関係や論の進め方（事実や意見、問いや答え、実験等）などを読み取るためには教科書の行間に児童の考

小学校国語科における模擬授業指導に関する一考察  
 ー 教員採用選考試験における指導を通してー

えを書かせたりワークシートに書き写させたりすることが必要である。なお、代表的な6作品は「東京書籍」の教科書から筆者が独自に選定した。

表2 説明的文章教材指導のキーワード

|         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 確かな読み   | 筆者が読み手に伝えている知識や情報を正確に読み取らせる。        |
| 文章の構成   | はじめ（序論）・なか（本論）・おわり（結論）を捉えさせる。       |
| 段落相互の関係 | 問題と答え、対比や並列などの文章の関係を捉えさせる。          |
| 言語活動の設定 | 読み取った文章構成をもとに、調べたりまとめたりする言語活動を設定する。 |
| 他教科との関連 | 報告文や記録文など他教科の学習に活かす。                |
| 読書への誘い  | 筆者に関係する図書等を紹介して読書意欲を高める。            |

## 5. 模擬授業指導のポイントと模擬授業評価

### (1) 過年度受験生への模擬授業指導後の課題

第一次選考試験に合格した受験生は、大学での講義や教育実習等により模擬授業の在り方にある程度の理解と実践力を有しており、大きな課題は把握できなかった。しかし、過年度受験生への模擬授業指導を行なった際に次のような課題があることを認識した。

- ア 模擬授業の課題が求める授業の場面を理解せず授業を行なう。
- イ 導入部分から模擬授業を開始するため課題が指示する授業を達成できない。
- ウ 約10分間の模擬授業の展開（流れ）の構成に困難さを感じている。
- エ 発問と質問の区別がつかずに乱発する傾向がある。
- オ 机間指導の場面で個別指導をせずに教室内を巡回（歩き回る）している。
- カ 一斉指導の場面が多く個別指導の場面がほとんどない。
- キ 教師が教える場面が多く児童が主体的に学ぶ場面が少ない
- ク 国語科が求める資質・能力の育成を意識せずに模擬授業を行なう。
- ケ 板書に時間をかけすぎて指導する時間が足りない。
- コ 模擬授業で緊張しすぎて表情が硬く、時と場に合った声量も適切でない。
- サ 教材名や本時の目標（めあて）など模擬授業で必要と思われる板書ができない。
- シ 発問後に実習時の実際の児童名で指名する。

### (2) 模擬授業指導のポイント7項目決定 ※（ ）内のカタカナは5の(1)参照

M県の教員採用選考試験の模擬授業の概要や過年度受験生のM県教員採用選考第二次試験の模擬授業に関する情報などに加え、これまで4年間の過年度受験生の模擬授業指導における課題等を基にして、模擬授業指導における指導のポイントを7項目に絞って受験生を重点的に指導することにした。

- ① 「課題の解釈」(ア・イ・ク) 模擬授業で示される課題の読み取り
- ② 「発問と質問の構成」(ウ・エ) 模擬授業における発問と質問の構成
- ③ 「板書」(ケ・サ) 模擬授業における板書の在り方
- ④ 「机間指導」(オ・カ・キ) 机間指導時の児童への声かけや指示の在り方
- ⑤ 「態度や心構え」(コ) 授業者としての態度や心構え
- ⑥ 「声量」(シ) 授業者としての声量

## ⑦ 「その他」(シ) 模擬授業時の留意点等

## (3) 模擬授業指導の受験生評価

上記(1)に掲げた「ア」から「キ」を模擬授業の評価項目として、1項目10点満点で評価した。

表3 模擬授業評価表

| 模擬授業者 ( ) 教材名 ( ) |                           |
|-------------------|---------------------------|
| 模擬授業の評価の観点        | 具体的な評価内容                  |
| ア 課題の解釈           | 模擬授業課題が提示する内容を十分に解釈しているか。 |
| イ 発問と質問の構成        | 発問と質問は適切で児童の学びを深めたか。      |
| ウ 板書              | 模擬授業で必要な板書を構造的に児童に示したか。   |
| エ 机間指導            | 児童への個別の支援や指導を適切に行なったか。    |
| オ 態度や心構え          | 試験官を意識せずに授業者になりきったか。      |
| カ 声量              | 発問等の声が明瞭で児童にとって聞きやすい声量か。  |
| キ その他             | 常に穏やかな表情で児童を指導しているか。      |

## 6. 模擬授業指導の7項目の指導のポイント ※ ( ) 内のカタカナは5の(1)参照

## (1) 「課題の解釈」(ア・イ・ク)

M県の過年度受験生の情報によれば、模擬授業実施15分程度前に受験生一人一人に模擬授業の課題とそれに付随した教材等が書かれた問題用紙が配布される。受験生は課題を読み取り(解釈)課題が求める模擬授業の構想を与えられた時間内に行なう。模擬授業を行なう場合は、この課題解釈が最も重要であり、模擬授業の正否を握っていると指導した。

また、模擬授業の課題部分を解釈する際に求められる模擬授業の約10分間は、45分の授業のどの当たりの10分間を指示しているのか。導入部分の模擬授業10分間を指示しているのか、展開部分(前半・中盤・後半)の模擬授業10分間を指示しているのか、終末部分の10分間の模擬授業を指示しているのかについて、課題をもとに判断することを指導した。

## (2) 「授業構力：発問と質問の構成」(ウ・エ)

多くの授業は、教師が発する質問や発問等により授業が進められる。質問は一問一答式の形式が多く、中心となる発問は児童から多様な考え方を求める場合に行なう。特に、国語科授業の場合は主人公の心情や場面の情景を読み取らせるために、質問だけの構成では難しく中心となる発問の前に補助となる質問を幾つか行なう場合が多い。

模擬授業では、授業者の前に児童がいるわけではなく授業者の質問や発問に児童が答えることもない。模擬授業の授業構想と同時に発問や質問に対する児童の考え方等を予想しておくことが必要である。また、模擬授業では質問者も発問者も授業者自身であり、発問に対する返答も授業者自身であることから、自分の模擬授業が進みやすくする返答をできることも説明した。

## (3) 「板書」(ケ・サ)

板書は、45分間の授業の流れを示し、授業を振り返ることができるものであり、児童は教師の書いた板書をノートに書き写すことで本時学習を振り返ることができる。M県の模擬授業は板書の義務付けはないが「黒板とチョーク」「ホワイトボードとマーカー」が試験会場に用意されているため、模擬授業では授業

小学校国語科における模擬授業指導に関する一考察  
— 教員採用選考試験における指導を通して —

に必要と思える内容を板書するよう指導した。

特に、国語科においては教材名（作品名）、ねらい、主な発問、児童の答え、まとめなどを板書することが一般的であり、模擬授業では丁寧な文字で書くことや教室後方に座っている児童が見えるよう文字の大きさに配慮して書くことを指導した。

しかし、約10分間という模擬授業の制限時間内で板書の時間を長くすると、児童への指導や発問、机間指導などの時間が不足する恐れがあるため、板書に関してはできるだけ短い時間で必要な情報を書くように指導した。なお、教材名は必ず板書することや本時の目標（めあて）については、四角囲みにして文章を省略しても試験官は理解できると説明した。

#### (4) 「机間指導」(オ・カ・キ)

通常の授業では、教師が教える場面と児童が主体的に学ぶ場面を設定したり、児童同士が話し合いを通して課題等を解決したりする場面を設定する。教師が教える場面では一斉指導の形式を取り、児童が主体的に学ぶ場面では教室を教師が巡回して児童一人一人の理解度や達成度を確認するとともに、児童の質問に答えたり、児童が学習課題等を理解して個人思考をしているか等を確認したりして個人差に応じた個別指導を行う。個別指導は児童の主体的な学びを支援するものであり、教師は授業中に教室を巡回して児童の学びの様子を見取ることが大切である。

模擬授業は約10分間という短い時間であるが、教師が課題等を発問した後に児童が個人思考する場面や児童同士で話し合う場面を設定するよう指導した。また、教室を巡回しての言葉かけや個人差などに応じた児童への直接的な指導は重要であることを説明した。

#### (5) 「態度や心構え」(コ)

誰も試験というと緊張する。ましてや数名の試験官の前で模擬授業を行うとなるとなおさらである。試験会場には、試験官と受験者しか存在せず児童の姿はない。受験生は、試験会場に大勢の児童が存在していることを意識して模擬授業に臨むことが大切である。受験生は、大学での模擬授業や教育実習等の経験を活かし、試験会場であたかも授業を行なっている様子を試験官にイメージさせることが大切である。試験官を意識せずに目の前に存在する児童に対して授業を行なうためには、恥ずかしさを捨て役者になりきって演技することが大切であると指導した。

#### (6) 「声量」(ク)

授業では、教室内の児童全体を指導する「一斉指導の場面」や机間指導で行なう「個別指導の場面」の設定を行なう。一斉指導の場面では、教室全体に聞こえる声量が必要であるが個別指導の場面では、他の児童の思考を妨げずに個別指導を行う必要があるために教師自身の声量に注意する必要がある。

模擬授業では、一斉指導や個別指導の場面を設けることとその場面毎に教師の声量を工夫することが必要であり、児童を授業に集中させたり授業の大切なポイントを意識させたりするためには強弱や抑揚のある声が教師に求められることを指導した。

#### (7) その他(シ)

受験生が模擬授業を行なう場合、評価者（筆者）や参観する学生が教室に居るため多くの受験生は緊張して臨む。模擬授業を行なう表情が硬く笑顔に乏しい受験生が多く見られた。そこで、授業中の教師の表情は児童を深い学びに誘うためにはとても大切なことであると説明し、模擬授業中は受験生の穏やかで笑顔ある表情が教室に安心して学べる雰囲気をつくることを指導した。なお、模擬授業での発問や質問等で児童を指名する場合には「Aさん」「Bさん」「Cさん」などと指名するよう指導した。

## 7. 小学校国語科模擬授業指導の実際

受験生に対してM県で採用されている第6年の教科書の中から筆者が文学的文章教材と説明的文章教材を選定し、教材毎に課題を示して受験生一人一人に教室で模擬授業を行なわせた。受験生は約90分間の指導時間に3～4名のグループに分かれて模擬授業一人一人が模擬授業を行なった。受験生毎の模擬授業を参観した後、筆者が感想や意見を伝えた。そして全員の模擬授業終了後に全員に対して模擬授業のポイントを指導した。

### (1) 模擬授業対策講座（指導時間90分間）の指導の流れ

- ア 受験生一人一人にそれぞれの模擬授業課題を与える。
- イ 教室内で約15分間模擬授業課題をもとに模擬授業の構想を考えさせる。
- ウ 模擬授業を筆者と他の受験生の前で約10分間行なう。
- エ 他の受験生からの模擬授業に対する質問や意見に答える。
- オ 次の受験生の模擬授業を参観する。
- カ 受験生全員の模擬授業終了後に模擬授業で大切な7項目を指導する。

### (2) 模擬授業課題の作成

模擬授業課題については、M県内で広く採用されている「東京書籍」の国語科教科書を活用した。なお、第一次試験合格者にM県教育委員会から模擬授業教材として、第6学年から出題するという通知がなされたために「東京書籍」の第6学年教科書から模擬授業の課題を作成した。

#### ア 課題1（文学的文章教材）

学年：第6学年 教材名：「サボテンの花」 出展教科書：東京書籍

指導事項：【C読むこと エ、オ、カ】

#### 模擬授業課題

次の文章は、第6学年の「サボテンの花」の第1場面である。サボテンと風の会話をもとにして、「一つの意志」について考えさせる授業を展開しなさい。

#### イ 課題2（説明的文章教材）

学年：第6学年 教材名：「未来に生かす自然のエネルギー」 出展教科書：東京書籍

指導事項：【C読むこと(1)ウ】 【C読むこと(1)カ】

#### 模擬授業課題

次の文章は、第6学年の「未来に生かす自然のエネルギー」の序論部分の文章である。「持続可能な社会」と「エネルギー問題」について筆者の考えを読み取らせる授業を展開しなさい。

#### ウ 課題3（漢文）

学年：第6学年 教材名：「春暁」 出展教科書：東京書籍

指導事項：【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 ア(ア)、ウ(イ)】

#### 模擬授業課題

次の文章は、第6学年オ「漢文を読んでみよう」の中の漢詩である。単元の目標は、「言葉の響きやリズムの良さを感じ取りながら音読することができる。」である。次の漢詩を音読させるとともに、現代語訳をもとに情景を思い浮かべる授業を展開しなさい。

#### エ 課題4（詩）

小学校国語科における模擬授業指導に関する一考察  
— 教員採用選考試験における指導を通して —

学年：第6学年 教材名：「いま始まる新しいいま」 出展教科書：東京書籍

指導事項：【読むこと ウ エ】

模擬授業課題

次の文章は、第6学年の「詩を味わおう」の単元の「いま始まる新しいいま」である。この詩を読んで気づいたことをもとに感動の中心について話し合う授業を展開しなさい。

オ 課題5（文学的文章教材） 教材名：「海のいのち」 出展教科書：東京書籍

指導事項

模擬授業課題

次の文章は、第6学年の「海のいのち」の冒頭部分である。第1場面を読み、父の生き方と太一の父への思いを読み取る授業を展開しなさい。

(3) 模擬授業における基本的な授業展開

一般的に45分間の授業は「導入の段階」「展開の段階」「終末の段階」という指導過程で授業を構成する。国語科の授業では「つかむ」「見通す」「調べる」「深める」「まとめる」の5段階の指導過程が一般的であり、第二次試験会場で模擬授業の課題が提示された時、受験生は指導過程のどの段階で約10分間の模擬授業を行なうのか解釈（読解）する必要がある。

例えば、第6学年の「サボテンの花」の模擬授業では、受験生に「次の文章は、第6学年のサボテンの花の第1場面である。サボテンと風の会話をもとにして、『一つの意志』について考えさせる授業を展開しなさい。」と提示した。この課題の意図はサボテンの花の第1場面を読ませ、サボテンと風の会話の部分からサボテンが抱く「一つの意志（生き方）」を考えさせる授業を行なうように課題を提示した。

しかし、過年度に「サボテンの花」の模擬授業をした受験生の多くは、授業開始の挨拶から始まり、教材名を板書し、登場人物を発表させ、めあて（本時の目標）を教師が与え黒板に書くという流れの模擬授業を行なった。多くの受験生の模擬授業は課題が指示する場面の授業を達成することはできなかった。

模擬授業の終了後に受験生同士で模擬授業の課題が指示する場面の授業ができなかったことに関して協議させ、課題が指示する場面の授業を行なうためには、それ以前の指導場面を省略したり簡略化したりすることが必要であると指導した。

(4) 約10分間の模擬授業の基本的な流れ

「サボテンの花」の模擬授業を経験して、受験者の多くが課題を解釈（読解）することの重要性とどの部分を10分間授業すれば良いのか、課題が指示する授業を行なう場合はそこに至る授業場面を省略したり簡略化したりすることが必要であることを理解した。

また、10分間の授業をどのように行なえば良いかということについて受験生に指導した。受験生から「前の時間の復習」「めあてを書く」「発問をする」「児童の発表させる」等が必要という意見が出たため、筆者が約10分間の授業の流れについて以下のような提案を行なった。

ア 説明（前の授業の復習・本時の学習内容等）

※時間をかけずに簡潔に説明する。本時のめあて（目標）を意識させる。

イ 板書（教材名・めあて）

※教材名は必ず書く。「めあて」という言葉だけ板書し、四角囲みだけで文章は省略する。

ウ 質問（模擬授業の中心となる発問の考え方に近づかせるために必要な質問をする。）

エ 発問1（模擬授業課題が指示する中心となる発問で、児童が一人調べで多様な考えを読み取る発問をす

る。) ※ワークシートや教科書の行間等に児童の考えを書かせる。

オ 机間指導 (児童が主体的に調べ学習する時間に教室を巡回して個別指導をする。)

※発問内容の理解が不十分な児童や読み取りが困難な児童に個別指導を行う。

カ 発表 (教師が児童を指名し児童が読み取った内容を発表する。)

※複数の児童を指名し、発問に対する多様な考えを発表させる。

キ ペア・グループ学習 (2名または4名程度のグループ学習を行い、多様な考えを発表し合ってまとめる。)

本来の国語科の授業では、児童同士で話し合った内容を発表したり黒板に書いたりする場面を展開することになるが、模擬授業は約10分という時間制限があるため、上記の「ア」から「キ」の模擬授業の基本的な流れを基にして模擬授業を構成するように指導した。

#### (5) 国語科における教材文を読むことの重要性

「国語科の授業は、読みで始まり読みで終わる。」という言葉を受験生に話した。言葉を学び言葉による表現方法を学ぶ国語科の授業では教材を声に出して読むことはとても重要なことである。筆者は、国語科の授業では授業の始めと終わりに教師が教科書を範読する。そして児童が本時の授業に必要な場面や段落等を一人読みや群読を行なう。

そこで、受験生には模擬授業で提示された教材名を板書した後に、児童に向かって教材を範読する場面を設定するよう指導した。ただし、提示された教材が詩や俳句・和歌等の場合は範読の時間は短くて済むが、文学的文章教材や説明的文章教材を模擬授業課題として提示された場合は、文章が長文のため教師の範読に長い時間をかけることができない。そこで長文の場合は「教材名」「筆者・作者名」「提示された教材の最初の一文と最期の一文」を読むよう指導した。

#### (6) 筆者による模擬授業の展開

文学的文章教材である「サボテンの花」の課題として設定し、模擬授業の基本的な流れにそって約10分間行なった。

ア 模擬授業の教材 (文学的文章)

学年：第6学年 教材名：「サボテンの花」 出展教科書：東京書籍

指導事項：【C読むこと エ、オ、カ】

<模擬授業課題>

次の文章は、第6学年の「サボテンの花」の第1場面である。サボテンと風の会話をもとにして、「一つの意志」について考えさせる授業を展開しなさい。

イ 模擬授業指導の流れ (例)

○説明 (前の授業の復習・本時の学習内容等)

昨日の国語の授業では「サボテンの花」の初発の感想をまとめ、「サボテンの花の登場人物の生き方について考えをまとめよう。」という単元目標を設定しました。今日の授業では、第1場面を読み、サボテンと風の会話文からそれぞれの生き方に対する考え方の違いを読み取り、サボテンの「一つの意志」についてみんなで意見を交流しましょう。それでは先生と一緒に「教材名」「作者名」「めあて」をノートに書き写してください。

○板書 (教材名・めあて)

模擬授業開始と同時に教材名「サボテンの花」「やなせたかし」「めあて」を板書した。「めあて」については「めあて」という言葉とペンで四角囲みを行いめあての文章は省略した。

小学校国語科における模擬授業指導に関する一考察  
— 教員採用選考試験における指導を通して —

○質問（中心となる発問の考え方を導くために必要な質問）

これから先生が第1の場面を読みます。会話文を参考にサボテンと風の生き方に関する表現だと思う言葉に線を引きながら聞いてください。

※教材名、作者名、最初の一文と最後の一文を読む。

- ・サボテンの生き方に関する表現はどこに書いてありますか。
- ・風の生き方に関する表現はどこに書いてありますか。

○発問1（模擬授業課題が指示する発問で児童が一人調べで多様な考えを読み取る発問）

それでは、第1場面の会話文からサボテンと風の生き方に関する表現をワークシートの1番に記入してください。5分ぐらいで書き抜きなさい。

○机間指導（発問の後に教室を巡回して個別指導をする。）

教卓から離れて机と机の間を巡回し、児童の目線になるように腰をかがめて個別指導をする仕草をした。「サボテンの会話文はどこですか。」「この会話文を読んで書きなさい。」「生き方がわかる表現はどこかな。」「よく考えました。」などと児童に小声で話しかけるように個別指導をした。

○発表（教師が児童を指名し、児童が読み取った内容を発表する。）

5分たちました。それでは調べたことを発表してもらいます。発表できる人は手を挙げてください。Aさんどうぞ。そうだね。その言葉はサボテンの生き方に関する言葉ですね。他にはありませんか。Bさんどうぞ。風の生き方に関する言葉ですね。よくまとめました。他には……。

○発問2（模擬授業課題が指示するねらいを考えるための中心的な発問）

それでは、今日のめあてとしているサボテンの「一つの意志」について考えましょう。まずはワークシートの2番目に自分の考えを書いてください。

○ペア・グループ学習（隣同士の2名・4名程度のグループで多様な考えを発表しあう。）

それでは、ワークシートの2番の「一つの意志」についてグループで考えてまとめましょう。グループで考えがまとまったら、用紙に清書して黒板に貼ってください。話し合ってまとめる時間を7分程度とします。それでは司会者の人進行をお願いします。

○模擬授業終了（約10分間）

受験生は、筆者から複数の模擬授業課題を提示され、受験生一人一人が模擬授業の基本的な流れを強く意識して模擬授業に取り組んだ。

## 8. 終わりに

M県教員採用選考試験対策を大学から依頼されて5年目が過ぎようとしている。これまでにM県教員採用選考試験の第一次選考試験や第二次選考試験の概要等を実施要項等により説明するとともに、第二次選考試験対策として小学校国語科における模擬授業指導を受験生に行ってきた。

筆者は、小学校勤務経験がある先輩教師としてM県の教育水準の維持向上のためには多くの優秀な後輩教師をM県内の小学校現場に送り出すことが重要であるという強い思いと「教師は授業が命」という強い思いがあり、そのことが受験生への模擬授業指導のエネルギーとなっている。模擬授業指導では、筆者の強い思いからの指導に涙を浮かべる受験生もいたが、模擬授業指導を経験した受験生の多くがM県や県外の教員採用選考試験に合格して小学校現場で活躍している。

令和3年4月1日。11名の素晴らしい学生が大学卒業と同時にM県内の小学校現場に就職する。大学入

学時に目標とした小学校現場への就職は決して楽なものではないと思うが、教員採用選考試験の模擬授業等に関わった多くの学生がM県内の小学校現場において笑顔で働く姿を想像すると嬉しくてたまらない。11名の更なる成長と現場での健闘を祈っている。

<注>

- (1) 令和3年度（令和2年度実施）「宮崎県公立学校教員採用選考試験実施要項」 宮崎県教育委員会
- (2) 平成30年度（平成29年度実施）「教員採用選考試験を振り返って」 宮城県教育委員会
- (3) 令和2年度『あたらしい国語（こくご）』第1学年から第6学年教科書の文学的文章教材より  
東京書籍
- (4) 令和2年度『あたらしい国語（こくご）』第1学年から第6学年教科書の説明的文章教材より  
東京書籍

<参考文献>

- （平成29年告示）小学校学習指導要領解説国語編 p3・p9 文部科学省